５古典文法―用言・副詞・助動詞・敬語

１　次の――線部①～⑦の動詞について、例にならって活用の種類を答えよ。

　昔、田舎わたらひ例しける人の子ども、井のもとに  
 ①いでて②遊びけるを、大人に③なりにければ、男も女も④恥ぢかはして⑤ありけれど、男はこの女をこそ⑥得めと⑦思ふ。 （『物語』第二三段）

例〔　サ 　〕行〔　変格　〕活用　①〔　　 　〕行〔　　　　〕活用

②〔　　 　〕行〔　　　　〕活用　③〔　　 　〕行〔　　　　〕活用

④〔　　 　〕行〔　　　　〕活用　⑤〔　　 　〕行〔　　　　〕活用

⑥〔　　 　〕行〔　　　　〕活用　⑦〔　　 　〕行〔　　　　〕活用

２　次の――線部①～⑨の語の品詞を後から選び、記号で答えよ。

　①よき人は、ひとへに②好けるさまにも見えず、③興ずるさまも④なほざりなり。片田舎の人こそ、⑤色濃くよろづは⑥もて興ずれ。花のもとには、ねぢ寄り立ち寄り、あからめも⑦せずまもりて、酒飲み、連歌して、果ては⑧大きなる枝、⑨心なく折り取りぬ。 （『』第一三七段）

ア　動詞　　イ　形容詞　　ウ　形容動詞

①＝（　　　）　　②＝（　　　）　　③＝（　　　）

④＝（　　　）　　⑤＝（　　　）　　⑥＝（　　　）

⑦＝（　　　）　　⑧＝（　　　）　　⑨＝（　　　）

３　次の――線部を助動詞に注意して現代語訳せよ。

①見れば、て来し女もなし。

②京にはあらじ、のに住むべき国求めにとて行きけり。

③（ぼたもちができるのを）待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、

④（上皇が）を造らせられけり。

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

④〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

４　次の□内の助動詞を適当な形に活用させよ。

①　名をば、さぬきのみやつことなむ言ひけり。

②　鬼はや一口に（女を）食ひつけり。

③　用ありて行きたりとも、その事果てぬば、とく帰るべし。

④　道知れり人もなくて、惑ひ行きけり。

⑤　（水車が）おほかためぐらずければ、とかく直しけれども、

⑥　冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじ。

①〔　　　　　　　〕　②〔　　　　　　　〕

③〔　　　　　　　〕　④〔　　　　　　　〕

⑤〔　　　　　　　〕　⑥〔　　　　　　　〕

５　次の――線部の助動詞の意味と文中での活用形を答えよ。

―帝にはたいへんかわいがっている飼い猫がいた。あるとき世話役の女房がからかい半分で「」という犬をけしかけ、帝の怒りを買ってしまう。「翁丸」は男たちにかれ、死んでしまったと聞いて、作者はに思っていた。その後、ひどくみすぼらしい犬が姿を現した。

　「あはれ昨日、翁丸をいみじうも打ち①しかな。死にけむこそあはれなれ。何の身にこのたびはなりぬ②らむ。いかにわびしき心地し③けむ。」とうちいふに、このゐ④たる犬のふるひわななきて、涙をただ落としに落とすに、いとあさまし。「さは、翁丸にこそはあり⑤けれ。は隠れ忍びてあるなりけり。」と、あはれにそへて、をかしきこと限りなし。（中略）

　さて、かしこまりゆるさ⑥れて、もとのやうになり⑦にき。なほあはれがられて、ふるひ鳴きでたりしこそ、世に知らず、をかしくあはれなり⑧しか。人などこそ人にいはれて、泣きなどはすれ。（『』うへにさぶらふ御猫は）

①〔　　　　　〕〔　　　〕形　②〔　　　　　〕〔　　　〕形

③〔　　　　　〕〔　　　〕形　④〔　　　　　〕〔　　　〕形

⑤〔　　　　　〕〔　　　〕形　⑥〔　　　　　〕〔　　　〕形

⑦〔　　　　　〕〔　　　〕形　⑧〔　　　　　〕〔　　　〕形

６　次の敬語動詞の意味（訳）を下から選び、記号で答えよ。

①　のたまふ　　　（　　　）

②　聞こゆ　　　　（　　　）

③　うけたまはる　（　　　）

④　まゐる　　　　（　　　）

⑤　る　　　　　（　　　）

⑥　おはします　　（　　　）

⑦　おぼす　　　　（　　　）

⑧　ごもる　　（　　　）

ア　お思いになる

イ　いらっしゃる

ウ　申し上げる

エ　おっしゃる

オ　参上する

カ　おやすみになる

キ　お聞きする

ク　退出する

７　次の（　）に入ることばをそれぞれ後から選び、記号で答えよ。

①　（　　　）、その人にまろありとふな。 （禁止の文）

②　今は逃ぐとも、（　　　）逃がさじ。 （打消推量の文）

③　あとまで見る人ありとは、（　　　）知らむ。 （反語の文）

④　（　　　）、・鳥のごとくにてふ。 （比喩の文）

⑤　人のりをも（　　　）らせはず。 （不可能の文）

⑥　（　　　）習ひあることにらむ。 （推量の文）

ア　ゆめ　　　　イ　さだめて　　ウ　え

エ　いかでか　　オ　よも　　　　カ　さながら

【解答】

１　①ダ〔行〕下二段〔活用〕　②バ〔行〕四段〔活用〕

　　③ラ〔行〕四段〔活用〕　　④サ〔行〕四段〔活用〕

　　⑤ラ〔行〕変格〔活用〕　　⑥ア〔行〕下二段〔活用〕

　　⑦ハ〔行〕四段〔活用〕

２　①イ　②ア　③ア　④ウ　⑤イ　⑥ア　⑦ア　⑧ウ　⑨イ

３　①連れてきた女　　②京にはいるまい（いないつもりだ・いたくない）

　　③良くないだろう　④造らせなさった

４　①ける　②て　③な　④る　⑤ざり　⑥まじけれ

５　①過去・連体〔形〕　②現在推量・終止〔形〕　③過去推量・連体〔形〕

　　④存続・連体〔形〕　⑤詠嘆・已然〔形〕　　　⑥受身・連用〔形〕

　　⑦完了・連用〔形〕　⑧過去・已然〔形〕

現代語訳　「ああ、昨日は、翁丸をずいぶんひどく叩いたことよ。死んだというがかわいそうなことよ。（今度は）何の身に生まれ変わったことであろうか。どんなにつらい気持ちだっただろう。」と独り言のように言うと、この座っていた犬が身を震わせて泣き、涙をしきりに落とすので、まったく驚いた。「それでは、翁丸だったのだなあ。昨晩は素性を隠していたようだ。」と、（その気持ちは）かわいそうなのに加えて、なんともいえず面白い。（中略）さて、（その後）おとがめも許されて、もとのようになった。（私から）同情されて、身を震わせて泣き出したときのことは、なんともいえず、面白くもありかわいそうであった。人間などは人から同情されて、泣いたりするものだが（まさか犬が）。

６　①エ　②ウ　③キ　④オ　⑤ク　⑥イ　⑦ア　⑧カ

７　①ア　②オ　③エ　④カ　⑤ウ　⑥イ